

発行:平成28年3月24日(月1回程度発行)

発行元:郷づくりまるやま 編集:地域づくり支援員

〒299-2592南房総市岩糸2489(丸山地域センター内)TEL:0470-46-2388

FAX:0470-46-3991

URL:<http://civil.mboso-etoko.jp/group/detail.asp?id=84>



～ ほっとスポットひだまり報告 ～

『ほっとスポットひだまり』が3月10日(木)千歳ミーティングハウスで開催されました。

部会長の和田豊さんより、

「寒い中、お集まりいただきありがとうございます。この『ほっとスポットひだまり』では皆さんが集まって、いろいろな話をして頂きたいと思います。

よろしくおねがいします」

と挨拶の後、お茶やコーヒーを飲みながらおしゃべりをしていました。

しばらくして、丸山の白子の駐在さんが巡回してきたので、会員さんが呼び止め、中に入ってもらいました。折角ですので、オレオレ詐欺や交通事故に注意する話などを伺いました。

又、カラオケを歌ったり、昔の小学校の話があったりして会は楽しく終わりました。



ほっとスポットひだまり風景

地域の出来事

「安馬谷」御神的(おまと)神事

毎年3月3日、安馬谷地区では稲作の豊凶を占う南房総市指定文化財の御的神事を営みます。五穀豊穡の祈年祭に行われている神事。

安馬谷八幡神社(行縄孝氏子総代長)で厳かに執り行われた祭典の後、笹子秀文区長代理が矢を奉射しました。

矢は、3本ずつ早生、中生、晩生という順で9本です。

的中具合で稲作の豊凶を占い、今年は八分作の豊作と出ました。

射手は区長が1年目、区長代理が2年目(1期2年)で行うそうです。

日向に出れば春の日差しがあたたかでしたが、日陰はまだまだ寒いこの日、高台にある境内には、地元安馬谷区の住民をはじめ、近隣からの歴史愛好家やカメラ愛好家など見学者が多数おられました。

地元のおじいさんが、「以前は神社から見下ろせる鳥居から山のふもとに置いた的に向かって、馬上より一度に3本の矢を放ちました。その距離は相当あり、いかに昔の人は腕力が強かったかという事です」と話してくださいました。



また一つ地域の宝物を見つけました

講演：安房に残る最大の歴史遺産「嶺岡牧」

2月5日(金)、安房地区公民館連携講座「見たり聞いたり安房の国」の本年度4回目の講座が催されました。会場の丸山公民館には、3市1町の公民館への申し込みのあった多くの聴講者が集結しました。

嶺岡牧研究の第一人者の日暮晃一先生(現宮城大学講師)から「安房に残る最大の歴史遺産『嶺岡牧』」について、“嶺岡牧の何が、日本遺産に匹敵するほど価値があるものなのか”を、多数の写真や資料で解説がありました。聴講希望者が多数のため抽選でやむなく参加出来なかった人もあったとか。嶺岡牧への関心の高さの現れと言えそうです。

先生は、特に丸山地区の柱木牧(珠師ヶ谷大井)は、千葉県内の徳川幕府直轄牧の中でも類を見ない保存状態のよい場所で、牧を囲む野馬土手、石切帳場、馬捕り場、牛馬の水飲み場、馬場の木戸跡など、数多くの他の牧には見られない昔の姿が保存されていると指摘されています。

また、嶺岡牧の元牧士宅には沢山の牧に関する古文書が残っており、質量ともに類例を見ないという話です。そして、嶺岡牧は日本の乳牛生産基地として発足、日本の主要な製乳企業の発祥地として安房の各所に工場が設立されました。しかし、今は、それを示す建物は一部の跡地を残すばかりとなってしまっています。また、チッコカタメターノ食文化の中心地で、食生活の近代化にも嶺岡牧が大きく貢献しました。このように歴史遺産として重要な位置を占めているというわけです。

新たな展示で整備された酪農資料館には、嶺岡牧が日本酪農の発展に大きな役割を果たしたこと、日暮先生の研究により明らかになって来た嶺岡牧・柱木牧の歴史的意義が詳細に展示されています。酪農の発祥の地に相応しい学習の場になったと感じました。講演と施設見学の後、嶺岡基地も見学。頂上からの遠望は広大で誠に絶景でした。(和田 豊)



日暮晃一先生



聴講座席も満席の公演会場



愛宕山登頂記念で貰ったカード